

航空学生同巢会「航翔会」定期総会開く

1月18日（土）に、柏市において、「航翔会」総会が開催された。航翔会とは、海上自衛隊航空学生に入隊した時点で、自動的に会員になる同巢会（どうそうかい）である。イメージ的には学校の同窓会に近いが、単なる親睦会ではなく、現役や中途退官者を含めた会であることを強く表現するため、同じ巣で育った者の会という意味で「同巢会」と名付けた。

第1期航空学生の、槌山 汎 会長の言葉を借りれば、古代の「巢」という象形文字は、木の上でひな鳥3羽が、羽ばたこうとしている形を表している。その3羽は、現役自衛官として国の守りに従事している者、途中で進路を変更して民間で活躍している者、既に官民の仕事を終え、OBとなって社会活動に意義を見出している者、それぞれに例えることができるが、同じ「巢」で育ったという共通の絆を持っており、三者三様の者が、年齢に関わりなく忌憚のない意見を交換して親睦を深めることのできる会である。

当日は、おもに関東在住の1期から63期生までの130名が集まったが、中には遠く台湾の勤務先から駆け付けた者もいた。総会に続き、航学6期で工学博士でもある、石橋 明氏の「ヒューマンファクターからCRMへ」と題した特別講演が行われた。1時間を超える熱弁は、現在飛行配置にいる現役隊員だけではなく、これから搭乗員になろうとしている学生に飛行安全の大切さとリーダーとしての心構えを認識させ、自衛隊を去ったOBには、自分の歩んできた道を振り返って元気を取り戻すきっかけとってくれる有意義な時間となった。

今後も航翔会の総会は全国15支部の持ち回りで順次開催する予定であるので、地方にお住いのOBも楽しみにお待ちしております。

（23期 坂田担当委員記）

